

淡路（三原川等）地域 総合治水推進計画の改定の方角性

兵庫県 洲本土木事務所

令和6年 9月

河川下水道対策の方向性

(現状) 河川下水道対策は、県「社会基盤整備プログラム」や各市の事業計画等に基づいて着実に進めてきた。
 河川改修率は、H24 55.4%からR5末 60.2%に向上した (全県 H24 56.8%→R5末 60.1%)

今後の方向性

⇒ 県の「インフラ整備プログラム (R6.4)」等に基づき、**大日川等の河川改修や、倭文川排水機場の更新、各市のポンプ場、下水道対策の計画的な推進に取り組む。**

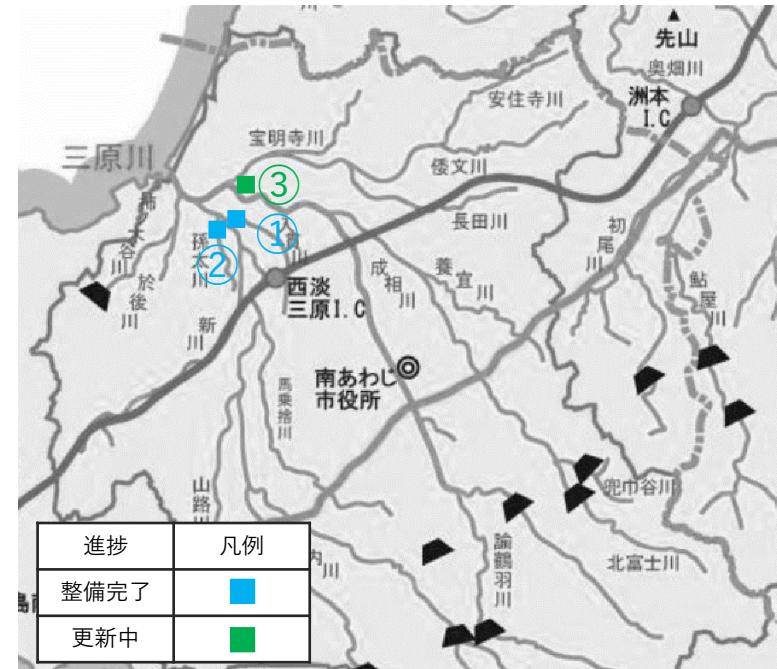
河川対策の進捗状況 (R5末)

進捗	凡例
整備完了	■
整備中	■
未着手	■



排水機場の更新・増強の進捗状況 (R5末)

番号	整備箇所	実施主体	進捗
①	入貫川排水機場	県	増強完了
②	孫太川排水機場	県	更新完了
③	倭文川排水機場	県	更新中



進捗	凡例
整備完了	■
更新中	■

各市のポンプ場、下水道対策の進捗状況 (R5末)

実施主体	整備内容	進捗
洲本市	特定環境保全公共下水道 (都志地区) (1/7規模)	83.9%
	公共下水道 (洲本地区) (1/7規模)	76.6%
南あわじ市	倭文両岸内水域小型排水ポンプ新設	整備完了
	志知川 (南) 排水機場 ポンプ更新	R6予定
	湊第1排水ポンプ場 ポンプ増強	R6予定
淡路市	公共下水道 (1/7規模)	R7雨水管理総合計画を策定予定

流域対策の方向性

(現状) 流域対策として、ため池事前放流約98万m³、水田貯留約45万m³等、計約146万m³の容量を確保した(全県約1,176万m³)。

今後の方向性

- ⇒ ・ ため池治水活用のさらなる拡大に取り組む (洪水吐切欠き等の整備箇所を追加する)。
- ・ ため池、水田、利水ダム等、各施設管理者への情報発信等を的確に行い、治水活用の確実な実施に取り組む。
- ・ 公的施設等の整備・改修にあわせた 貯留・浸透施設の設置を検討するとともに、民間開発における 調整池の設置・保全に引き続き取り組む。

流域対策の進捗状況

ため池



調整池の整備



既存ダムの治水活用



改定の方向性

施設区分	取り組み内容
ため池	<ul style="list-style-type: none"> ・洪水吐切欠き(箇所の追加) ・事前放流の確実な実施
公的施設	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場貯留 ・グラウンド貯留 ・グラスパーキング、浸透柵 ※公的施設の整備・改修にあわせた設置を検討する

減災対策の方向性



(現状) 洪水浸水想定区域図、ハザードマップを作成済みであり、防災情報提供や防災訓練なども継続的に進めている。

今後の方向性

- ⇒ 市民等の**的確な避難判断や行動、各市の水防活動や避難指示の発令等を支援**するハザードマップや、雨量・水位・カメラ等のリアルタイム情報のさらなる認知度向上、利活用促進に取り組む。
- これまで取り組んできた**減災対策を継続して進める**とともに、ワンコイン浸水センサによるリアルタイムの浸水状況の把握等、**新たな取組みを検討**する。

減災対策の進捗状況

項目		進捗状況	
(1) 浸水が想定される区域の指定・住民の情報の把握	洪水浸水想定区域図の作成	◎	水位周知河川を含む64河川で作成済み。
	洪水ハザードマップの作成・配布	◎	洲本市、南あわじ市、淡路市で作成・配布済み。
	イベントを通じた災害を風化させないための取組み	◎	洲本川レガッタ、講演会、シンポジウム等を年に1回程度開催。
(2) 浸水による被害の発生に係る情報の伝達	雨量・水位情報、河川監視画像の発信 ひょうご防災ネットによる情報発信	◎	継続的に実施
	防災行政無線、ケーブルテレビ、市ホームページ等	◎	継続的に実施
	フェニックス防災システムによる市への情報提供	◎	継続的に実施
(3) 浸水による被害の軽減に関する学習	淡路地区防災教育推進連絡会議の開催	◎	年に1回程度開催。
	防災リーダーの育成	◎	県による防災リーダーの育成のための研修・講座を年に1回程度開催。
(4) 浸水による被害軽減のための体制の整備	自主防災組織等の強化	◎	自主防災組織・消防団の体制維持、防災訓練の実施
(5) 訓練の実施	水防連絡協議会の開催	◎	関係機関で重要防災箇所の見直し等の情報共有を図る「水防連絡協議会」を年1回開催。
	防災演習・水防訓練の実施	◎	各市で総合防災訓練等を年1回程度実施。
(6) 建物等の耐水機能の確保	建物等の耐水機能	◎	庁舎の嵩上げ等を実施
(7) 浸水による被害からの早期の生活の再建	「フェニックス共済」への加入促進	◎	H25～R4にかけて、各市で加入率は増加傾向にある。

改定の方向性

- 新たな取組みの例
- ・兵庫県CGハザードマップをSNS等を活用して周知
 - ・ワンコイン浸水センサ（南あわじ市が国土交通省の実証実験として実施）
 - ・公的施設の改修にあわせた建物の耐水化（箇所の追加）

など